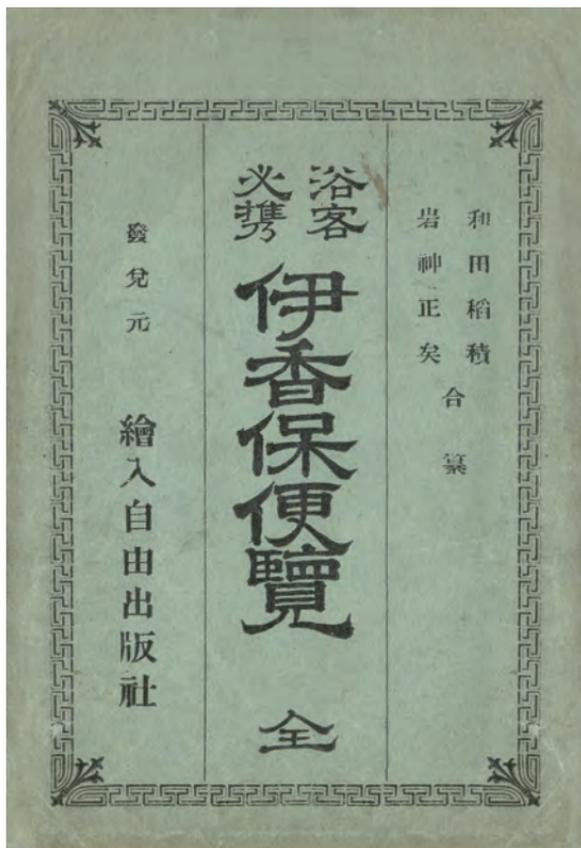


# 浴客必携 伊香保便覽 全

復刊版



群馬地域文化振興会

浴客 伊香保便覽序

暑を伊香保に避け病を温泉場に養ひむとする人の言を聞くに曰く伊香保は假令土地の高燥なる眺望の絶景なる氣候の温和なる空氣の新鮮なる皆是れ自然の健康に適するのみならず源泉の奇効ある未だ他に多く其の類を見ずといふと雖も唯如何せむ物價非常に貴く萬貫を腰に纏ふの陶朱猗頓者流にあらざるより到底行くべからず遊ぶべからざるの地なるを云々と余も亦此の言を信ずる久矣故に此の地に來浴せむと欲するの念慮ハ業已に數年前より切なる上にも切なりしかども元來一寒措大の身なれば之れを果すを得ずして遺憾ながら今日に至れり然るに本年ハ東京高崎間の鐵道開け往復の便また前日の比にあらざるべしとて某々二三氏の爲めに促され乃ち其の言に従ひ養瀉の爲め伊香保温泉場に至る在浴數旬畧ぼ該地の實況を評にする

を得彼の物價非常に貴し云々の言の如き實に其の當を失するに似たるを異み是れを浴舎の主人に質す主人笑つて曰く貴客の問ふ所理ありと謂ふべし其の當地に於て物價の貴しといふは鉄路未だ開けざるの時往復の盤纏を貪らるゝの致す所にして其の費は殆んど當地週日の滯浴費と相伯仲するに至り竟に其の罪を我か伊香保に歸す旅客の無情ある冤も亦甚しく我々浴舎の迷惑此の上も亦甚きなり今また貴客に向ひ此の冤を鳴らそ六日の宮浦十日の菊實に無益の愚痴たるを脱かれず依て开の唯人の評に任せ鉄道開設後今日の實況を語り以て貴客の疑惑を解くべしとて即ち叮嚀反覆該地滯浴中の雜費暮し方等の事を説く余之れを聞き尙ほ余が實地經驗したる所とに比し爰に始て或人の腰纏万貫の説の妄にして浴舎主人の語の徒に客を釣るの甘言ならざるを覺れり然らば今後此地に病を養ひ又暑を避けむと

するの人の假令諸物價の東京に比して多少の貴きを覺ゆるあるも日々資澤三昧を極むるにあらずんば非常の入費を用ひずして滯浴するを得べしと思ひけるまゝ余が目撃説及二三の書に就きて調べし該地の地理遊跡等を併記し後日の備忘に供せむが爲め一小冊子となして携へ歸り之れを友人に示す友人曰く時將さに炎暑の候に向はむとすれば避暑養病の客の伊香保に至る者甚だ多からむ何予速に之れ出版し浴客の便に供せざると余首肯せずして曰く君未だ知らずや伊香保の事を記するもの大槻氏が伊香保志を始め其他尙二三の書あり今また余が備忘録を公けにせむ頗る無益の業なり友人再び曰く否々余已に之れあるを知る然れども彼の伊香保志の詳らかなるは土地の沿革名所舊跡等の事ありて該地の諸物價費用等の事を記さしれば浴客の便を欠くに似たり又其他の書の偶費用に關する記事なきにあ

らざるも皆是れ鉄道開設前にかゝり今日に至りては始んど廢紙に齊とせ  
一却て客を惑はすの恐れあり依之觀是當時伊香保の現狀を知るの書  
なしといふも亦可ならずや是れ我が君の手録を得て世に公けにし以  
て浴客の便を計らむと請ふ所以なり何ぞ夫れ惜むことを爲すの甚し  
きなど道理ことわりせめて説き勸められ竟に之れを否むに由なく友人の語を  
採りて其まゝ浴客必携伊香保便覽と題し活版に附し同好に頒つこと  
ゝいなりぬ乃ち爰に其の轉末を略記して以て序文に換ふと云爾

明治十七年七月上泮

春 池 生 識

○凡例

一此の冊子の本年上野高崎間の鐵道開けし以來伊香保温泉場の一層繁昌に赴むきし景況及び浴客日用必要の諸件をも大概漏らさず書き集めたるものなり看客讀んで面白味なしと雖も亦た或の同所の事情を知るの益あらん乎

一伊香保の舊記并に名所古跡等の事を調べんとするも數度の火災の爲め文書記録の類の皆な悉く灰燼に化せりと云ふ故に此の冊子の唯だ纔かに存する書類或の古老の口碑に傳ふる所により其の稍々信するに足るものを撰んで參考とせり恐くの疎漏杜撰多からん看官乞ふ幸に之れを指摘して忠告の勞を吝む勿らんとす

明治十七年七月

編者識

目次

- 道筋
- 浴館
- 産物
- 鑛泉の功能
- 入浴心得
- 湯元
- 小學校
- 警察分署
- 電信分局
- 割烹店

附 諸荷物運賃一覽表

- 伊香保
- 食用品
- 鑛泉の質
- 内服心得
- 攝生心得
- 温泉の光榮
- 郵便局
- 戸長役場
- 名所古跡
- 伊香保近傍各地高低表

浴客  
伊香保便覽

和田稻積  
編纂  
岩神正矣

○道筋

東京より伊香保に至る道程凡ろ三十四五里にして從來道これまでを中仙道板橋とに取り、藏浦和、大宮、上尾、桶川、鴻ノ巣、熊谷、深谷、本庄、新町、倉賀野の諸驛を経て高崎に出るの馬車、人力車ありしと雖も此この二十八里間を一日若くは一日半を費すつひかにあらざむば着到きつをべからず爲めに不便ふべんなからざりしが上野、高崎間の鉄道成功せいこうなまゝ以來これより僅々わずか四時間にして高崎に至るを得うべし乃ち左に當時の瀛車出發表えいしやしゅつぱつひょうを掲ぐか（賃錢表ちんせんひょうの巻末まへに在り）

上野發	午前六時二十分	午後四時五十分
高崎發	午前六時十一分	午後四時三十分

高崎の松平輝貞の舊領八万二千石の城下にして上野の中央ちゆうなかに位する人家稠密の地なれば中仙道の繁華はんか此の右みぎに出るものなし戸數四千九萬七千餘今舊城を毀こぼちて東京鎮台の分營を置おかる驛中裁判所電信分局中學校、女學校等あり又當驛より東北の前橋、東南の中仙道、西南の富岡、北の三國街道、西北の草津、信州へ通ずるの路みちとす又伊香保に到いたるの路の二つあり本道の澁川通りにて捷徑ちやうみちの柏木通りなり左れば人力車夫の旅客に向ひ近ちかければとて此の柏木通りを行かむとを勸すすむれども此首こゝの道路險惡けんおく、阪道いさな甚多く下車せざれば挽ひく能はざるの箇所かゝしよ三四ヶ所もありて立場たてばも亦是れに隨したがひて少なからず且つ無味むみき澁茶しぶちやを勧められ些ちか少なれども茶代を與ふるの面倒めんどうありて近ちかき程ほどに早着はやちかすること難く寧ろ澁川通りを行くの便べんあるに如ごとかず併ひし徒歩たふするの客きやくに此の近路ちかみちによるもよかるべし又澁川通りしぶがわの道程みちのほど柏木通りより一里餘ひとりにち遠とほけれ